

# 第1回 設備サポートセンター整備事業シンポジウム

## 「大学の研究基盤戦略を考える」 設備共用の未来」

「設備サポートセンター整備事業」採択大学による成果報告を踏まえ、今後の科学技術政策における大学の研究基盤戦略について意見交換の場を設ける。

開会の辞 13:30-13:35

川端 和重 北海道大学 理事・副学長

基調講演 13:35-14:05

「学術研究を取り巻く動向と設備サポートセンター整備事業」  
岡本 和久 文部科学省 研究振興局 学術機関課 課長補佐

パネルディスカッション1 14:10-15:40

「設備サポートセンター整備事業の現状と課題」  
千葉大学 / 筑波大学 / 鳥取大学 / 高知大学

パネルディスカッション2 15:50-17:20

「研究基盤整備における大学の戦略・将来ビジョン」  
大阪大学 / 広島大学 / 名古屋工業大学 / 東京農工大学 / 金沢大学 / 北海道大学

パネルディスカッションファシリテーター  
江端 新吾 北海道大学 URAステーション 特任助教

閉会の辞 17:20-17:25

網塚 浩 北海道大学 研究戦略室 総長補佐

シンポジウム終了後、サッポロビール園にて懇親会を開催いたします。

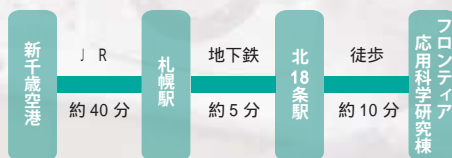
日時 平成27年1月22日(木) 13:30-17:25

会場 北海道大学フロンティア応用科学研究棟

1月13日(火)までに下記専用フォームよりお申込みください。

URL: <http://www.cris.hokudai.ac.jp/cris/rso/open/form.html>

### 会場までのアクセス



## 第1回設備サポートセンター整備事業シンポジウムを終えて ～課題と提言～

第1回設備サポートセンター整備事業シンポジウムは、上田一郎北海道大学理事・副学長による開会の辞で始まり、基調講演として文部科学省研究振興局学術機関課の岡本和久課長補佐に「学術研究を取り巻く動向と設備サポートセンター」と題してご講演頂いた。その後、各事業採択校の実施状況に応じて前半後半2つのパネルディスカッションが行われ、各大学の現状と課題、将来ビジョンが共有され、それに基づき様々なディスカッションが行われた。

基調講演、2つのパネルディスカッションを通じて、特に、「技術人材の不足および育成プログラムの必要性」「事業採択校間および地域における連携の増進」「共同利用料金の設定および共同利用予約システムの整備」が共通の課題として浮かび上がってきた。

以下、各課題についてまとめる。

### 【技術人材の不足および育成プログラムの必要性】

設備サポートセンター整備事業予算により、技術職員やRA(リサーチ・アシスタント)の配置を実施し、各大学は拠点形成を行ってきた。しかし、多くの装置を抱える一方で人手は十分でなく、人材育成プログラムも発展途上であるため、効率的に共用機器を運用することが困難である。

### 【事業採択校間および地域における連携の増進】

事業採択校間連携および地域連携は広島大学-鳥取大学の好事例はあるものの、以下に挙げる共通の料金システム・予約システムが浸透していないこともあり、なかなか進んでいない。また、各大学における設備サポートセンターの核となる分野が偏っているため、連携の糸口を見出せない点もある。

### 【共同利用料金の設定および共同利用予約システムの整備】

現在、自然科学研究機構分子科学研究所が主管する「大学連携研究設備ネットワーク」において、機器を相互利用するための予約・課金システムシステムが整備されているが、事業採択校の中で利用しているのは、千葉大学、鳥取大学、広島大学、東京農工大学の4校であり、大阪大学、金沢大学、名古屋工業大学、筑波大学、高知大学、北海道大学は独自のシステムを確立している。将来的な自走を目指し、独立採算が可能なシステムとするために最適なシステムの研究、検討と整備が重要な課題として浮かび上がる。

---

以上を踏まえ、平成28年度以降の設備サポートセンター整備事業継続に向け、次のことを提言する。

- 11 設備共用の維持および拡充のためには持続的な技術人材育成体制の整備が不可欠である
- 11 事業採択校間での人材交流の推進、さらには人事交流システムの確立を目指す
- 11 設備共用に関する大学間の円滑な連携を促進するために「大学連携研究設備ネットワーク」等の既存のシステムと連携した、共通の料金体系、予約システム、データベースの確立に向けた検討が必要である
- 11 設備共用をより有効に活用していくために、共用設備の修理やアップグレードに充当できる安定した財源の確保が不可欠である
- 11 科研費等の研究費の使用目的として、共用を目的とした場合の利用を特例として認める
- 11 大学の教職員に対して、「大型設備は大学、ひいては国・国民の所有物である」という認識と共に、設備共同利用の利点と重要性への理解を広めることが重要である
- 11 事業の成果を評価する基準(何をもちって有効活用と見るか)の整理と、それに基づいてアピールするアウトプットが重要である
- 11 ノウハウの共有のための取組(シンポジウム等)を継続的に行う
- 11 地域の技術者等に広く技術を伝えることも重要な地域貢献活動として推進すべきである

大阪大学 荒西 睦雄

広島大学 坂口 浩司

名古屋工業大学 種村 眞幸

東京農工大学 原島 朝雄

金沢大学 中西 孝

千葉大学 榎 飛雄真

筑波大学 大嶋 建一

鳥取大学 難波 栄二

高知大学 西郷 和彦

北海道大学 網塚 浩

北海道大学 江端 新吾

# 大学における新たな設備 共用体制を目指して

～地域連携による設備サポートの新たな展開～

平成28年1月21日(木) 13:30～

鳥取大学工学部大学院棟2階 大講義室

設備サポート事業の  
今とこれからが分かる

設備サポートセンター整備事業の発展と採択校間の連携を目的として、平成26年度に第1回シンポジウムが開催された。第2回目となる本シンポジウムでは、地域連携という視点を通して意見交換し、事業の発展を考える。

### タイムスケジュール

13:30～	開会挨拶 鳥取大学長 豊島 良太
13:35～	シンポジウムの趣旨説明 鳥取大学生命機能研究支援センター長 難波 栄二
13:45～	基調講演 『これからの設備サポートセンター整備事業(仮題)』 文部科学省 学術機関課
14:15～	ポスターセッション 『設備サポートセンター整備事業実施校の特徴的な取組み』
16:05～	パネルディスカッション 『地域連携』をキーワードに設備サポートの新たな展開を議論 事例紹介(北海道大学・東京農工大学・鳥取大学) パネリストおよび参加者との意見交換
17:25～17:30	閉会挨拶 鳥取大学理事(研究担当)・副学長 田中 久隆

シンポジウム終了後、海陽亭(鳥取市賀露町西3丁目27-1)にて情報交換会を開催します。  
翌日(1/22(金)午前中)に、希望者による鳥取大学施設見学会(乾燥地研究センター他)を開催します。  
シンポジウム、情報交換会および施設見学会への参加は下記URLにて1/8(金)までに申し込みください。  
<http://grc1.med.tottori-u.ac.jp/equipment-support/symposiums.html>

主催: 鳥取大学

共催: とっとりイノベーションファシリティネットワーク

後援: 鳥取大学振興協力会、公益財団法人鳥取県産業振興機構

TEL(0857)31-5464 e-mail: desp@adm.tottori-u.ac.jp

## 第2回設備サポートセンター整備事業シンポジウムを終えて～課題と提言～

第2回設備サポートセンター整備事業シンポジウムは、豊島良太鳥取大学長による開会の挨拶で始まり、難波栄二鳥取大学生命機能研究支援センター長によるシンポジウムの趣旨説明、続いて文部科学省研究振興局学術機関課の岡本和久課長補佐より「共同利用・共同研究体制の強化・充実と設備サポートセンター整備事業等について」と題して基調講演を頂いた。その後、ポスターセッションにおいて各事業採択校の実施状況、課題・将来展望などの説明と情報交換が行なわれた。引き続き、パネルディスカッションが行われ、第一部では「地域連携」、第二部では「大学間連携」について活発なディスカッションが行なわれた。

基調講演と2つのパネルディスカッションを通じ、「地域連携におけるコミュニケーションの重要性」、「大学間連携における情報共有の重要性」、「技術者人材の育成のあり方」が課題として挙げられた。

### 【地域連携におけるコミュニケーションの重要性】

各大学において地域連携に対する様々な試みがなされているが、必ずしも地域のニーズとマッチしているわけではない。単なる設備情報の公開だけでなく、地域課題を解決するきめ細やかなサポートを行うための情報共有が重要である。一方で、大学における人的・物的リソースは限られており、教育研究と地域サポートとのバランスが難しい場合もある。

それらを円滑に行うためには、大学と地域それぞれの技術者・研究者間のコミュニケーションをより深化させ、人と人の繋がりを築き、顔が見えるネットワーク作りが必要である。

### 【大学間連携における情報共有の重要性】

大学間連携は今後ますます重要となる。しかしながら、大学間での設備共有を広げるためには大学ごとのシステムの違いを克服する必要がある。そのためにも本シンポジウムのような場で情報を共有することは重要である。また、大学連携研究設備ネットワークでは、分子科学研究所と各大学との役割分担を明確にし、それぞれの役割と目標を定めて設備共有を進める必要がある。

【技術者人材の育成と待遇のあり方】

地域連携、大学間連携を行う上で実務を担う技術職員の役割は大きい。しかしながら、技術職員の育成と処遇に対してまだまだ十分な措置がなされているわけではない。人材育成に関しては、設備サポートセンター整備事業や大学連携研究設備ネットワークを活用しつつ大学間で連携した技術者人材の育成を行っていくことも必要である。待遇に関してはスキルの評価など将来に希望の持てるキャリアパス形成について技術職員と共に議論していく必要がある。

以上を踏まえ、平成28年度以降の設備サポートセンター整備事業継続に向け、以下の提言をする。

- ・ 地域創生に貢献するため設備サポートを介した地域連携を推進すべきである。
- ・ 地域連携を推進するためには技術者・研究者間の人的ネットワークの構築が重要である。そのための事業実施、コーディネーション人材配置のための安定的な財源の確保が不可欠である。
- ・ 設備共用の利点と重要性への理解を広め、学内のみならず大学間連携による設備共用を一層推進すべきである。
- ・ 各大学の事情を理解し、役割分担を明確にし、有効な設備共用体制を構築するためにも事業採択校間での情報交換、情報共有が必要である。さらに、再利用や情報交換のための共用システムの構築、設備の再利用に充当できる安定的な財源の確保が不可欠である。
- ・ 設備共用を維持、推進するためには技術職員の役割が大きく、技術職員の持続的な人材育成体制の構築が必要である。
- ・ 技術職員のモチベーションを高め、より高度な支援を行うためにもキャリアパス形成が必要であり、そのための施策による支援が不可欠である。
- ・ このシンポジウムを地域連携、大学間連携のみならず設備サポートに関係する課題を解決するための情報交換、情報共有の場として継続するべきである。

北海道大学 網塚 浩

大阪大学 荒西睦雄

広島大学 坂口浩司

名古屋工業大学 種村眞幸

東京農工大学 原島朝雄

金沢大学 渡辺良成

千葉大学 榊飛雄真

筑波大学 青木克裕

高知大学 西郷和彦

九州大学 島ノ江憲剛

神戸大学 朴 杓允

東北大学 坂園聡美

鳥取大学 難波栄二

(第2回シンポジウム外部委員) 北海道大学 江端新吾

第3回

国立大学法人  
名古屋工業大学

設備サポートセンター整備事業シンポジウム

# 共同利用に向かう 教育研究設備の 今後の展望を探る ～求められる設備マネジメントとは～

参加無料

日時 / 平成29年1月26日木  
12:30 ~ 18:00

場所 / 名古屋工業大学 4号館1階ホール

[アクセス]名古屋駅 (JR 約10分) 鶴舞駅 (徒歩 約10分) 名古屋工業大学

1月26日 木)10:00 ~ 情報交換会終了時迄	ポスター 掲示
1月26日 木)18:00 ~	同会場にて情報交換会
1月27日 金)11:00 ~12:00	希望者による名古屋工業大学施設見学会

シンポジウム、情報交換会及び施設見学会への参加は、WEBまたはFAXにて**1月10日 火**までに申し込みください。URL: <http://irc.web.nitech.ac.jp/sympo/index.html>

文部科学省「設備サポートセンター整備事業」の採択を受け、教育研究設備の共同利用体制構築に積極的に取り組む全国各地の大学が一同に会し、「設備共用」に関する課題を解決するための情報交換・情報共有、そして発展に資する提言を行います。

## プログラム

開会の辞 12:30~

名古屋工業大学 学長 鷗飼 裕之

ポスタープレビュー 12:40~

平成28年度採択校  
北海道大学 / 群馬大学 / 岡山大学

基調講演 12:50~

『共同利用 共同研究体制の強化 充実と設備サポートセンター整備事業等について』  
講演者 文部科学省研究振興局学術機関課

ポスターセッション 13:20~

北海道大学 / 東北大学 / 千葉大学 / 筑波大学 / 群馬大学 /  
東京農工大学 / 大阪大学 / 金沢大学 / 神戸大学 / 鳥取大学 /  
岡山大学 / 広島大学 / 高知大学 / 九州大学 / 名古屋工業大学

企業講演 15:10~

『大学の装置利用で得られた成果とこれからの期待』  
講演者 東亞合成株式会社 執行役員 R&D 総合センター長 高橋 伸様

パネルディスカッション 15:40~

『今後の設備共用化戦略を語る』  
a) 事例紹介 広島大学 / 高知大学 / 名古屋工業大学  
b) パネリストによる意見交換  
パネリスト  
文部科学省研究振興局学術機関課 / 広島大学 / 高知大学 / 名古屋工業大学  
ファシリテーター  
北海道大学 グローバルファシリティーセンター 副センター長 /  
URAステーション 主任 URA 江端 新吾様

閉会の辞 17:55~

名古屋工業大学 理事 副学長 木下 隆利

主催: 名古屋工業大学 TEL: 052-735-5188 FAX: 052-735-7117  
URL: <http://irc.web.nitech.ac.jp/> Email: [oogata-sympo@lab-m1.web.nitech.ac.jp](mailto:oogata-sympo@lab-m1.web.nitech.ac.jp)



## 第三回設備サポートセンター整備事業シンポジウムを終えて

### ～課題と提言～

第三回設備サポートセンター整備事業シンポジウムは、鵜飼裕之名古屋工業大学長による開会の挨拶で始まり、平成28年度採択校によるポスタープレビュー、続いて文部科学省研究振興局学術機関課の中島大輔研究設備係長により、「共同利用・共同研究体制の強化・充実と設備サポートセンター整備事業について」と題して基調講演を頂いた。その後、ポスターセッションにおいて各事業採択校の実施状況、課題・将来展望などの説明と情報交換が行われた。引き続き、東亜合成株式会社執行役員 R&D 総合センター高橋 伸センター長より、「大学の装置利用で得られた成果とこれからの期待」と題して企業講演を頂いたほか、パネルディスカッションでは「今後の設備共用化戦略を語る」をテーマとして、活発なディスカッションが行われた。

基調講演・企業講演及びパネルディスカッションを通じ、「設備マネジメントの重要性」「技術者人材の育成のあり方」などが議題として挙がった。

#### 【設備マネジメントの重要性】

設備の共同利用を学内に浸透させ共同利用の推進を図るためには、学内で装置を個別に管理している教員に、大学の方針と共用化のメリットを丁寧に説明し、共用化に対し理解していただく必要がある。また、大学が保有する設備をデータベースとして学内に公開する等、設備利用のニーズとシーズをマッチングさせる機能を構築し、さらに共同利用に積極的に取り組んでいる教員に対して、教員評価に反映する等、各大学において適切な設備マネジメントを構築する事が重要ではないか。

#### 【技術者人材の育成のあり方】

外部資金により雇用した技術人材は、当該事業が終了するとともにキャリアが断たれる可能性がある。技術人材の人材育成のために、各大学において技術者人材のキャリアパスを整備する必要があるのではないかと。また、教員や事務職員に対しても同様の問題があるのではないかと。

以上が、本シンポジウムで議論された主な課題のとりまとめである。

本シンポジウムは、全国の大学等に所属する設備関係の教員、技術者、URA、事務職員等にとって、情報交換並びに、情報共有の場として有効に機能しており、来年度も継続して開催されるよう提言するとともに、平成29年度以降の設備サポートセンター整備事業も継続していただけるよう要望します。

以上を踏まえ、平成29年度以降の設備サポートセンター整備事業継続に向け、以下の提言をする。

- ・大学における設備共用を推進するためには、トップダウンによる全学的な設備マネジメントを構築する事が求められる。
- ・研究内容も十分に理解し、かつ、大学の研究戦略も意識できるマネジメント人材の配置及び、そのスキルの伝承が必要とされる。
- ・現場に即していないエフォート管理方法や教育に対するエフォート充当不可などの問題を解決するような制度設計が必要である。
- ・設備共用を維持・推進する為には技術職員の役割が大きく、技術職員の持続的な人材育成体制の構築及びキャリアパス形成が必要であり、施策による支援が不可欠である。
- ・設備共用に携わる学内関係者に対し、適切に評価が為されるような人事評価制度の構築が求められる。
- ・本シンポジウムを大学連携のみならず設備サポートに関する課題を解決する為の情報交換・情報共有の場として、継続するべきである。

北海道大学	江端 新吾
大阪大学	荒西 睦雄
広島大学	坂口 浩司
名古屋工業大学	江龍 修
東京農工大学	飯島 善時
金沢大学	渡辺 良成
千葉大学	榎 飛雄真
筑波大学	青木 克裕
高知大学	西郷 和彦
九州大学	島ノ江憲剛
神戸大学	朴 杓允
東北大学	坂園 聡美
鳥取大学	森本 稔
群馬大学	林 史夫
岡山大学	多田 宏子

第4回

TAT 国立大学法人  
東京農工大学

設備サポートセンター整備事業シンポジウム

# 研究・教育支援に対する 設備サポート事業の役割を考える ～研究・教育の活性化と学外連携に応える人材育成～

文部科学省「設備サポートセンター整備事業」の採択を受け、教育研究設備の共同利用体制構築に積極的に取り組む全国各地の大学が一同に会し、「設備共用」に関する課題を解決するための情報交換・情報共有、そして発展に資する提言を行います。

日時/平成30年 2月1日(木) 12:30～18:00

参加  
無料

場所/ルミエール府中 コンベンションホール飛鳥

【アクセス】 京王線府中駅下車 徒歩6分 <http://www.lumiere-fuchu.jp/access/index.html>  
JR中央線国分寺駅下車 南口2番線乗り場から府中駅行バス⇒農業高校下車 徒歩6分

※シンポジウム、情報交換会及び施設見学会への参加は、WEBにて 1月19日(金) までにお申し込みください。

URL: <http://www.tuat-setsubi.org/>



## プログラム

開会の辞 12:30～

東京農工大学 学長 大野 弘幸

ポスターレビュー 12:40～

平成29年度採択校  
東京医科歯科大学/鳥取大学/宮崎大学

基調講演 13:00～

【設備サポートセンター整備事業におけるこれまでの  
取り組みと今後に向けて】

〈講演者〉 文部科学省 研究振興局 学術機関課

ポスターセッション 13:30～

北海道大学/東北大学/筑波大学/群馬大学/千葉大学/  
東京医科歯科大学/金沢大学/名古屋工業大学/大阪大学/  
神戸大学/鳥取大学/岡山大学/広島大学/高知大学/  
九州大学/宮崎大学/東京農工大学

※11:00～情報交換会終了までポスター掲示

※同日 18:30～ 同会場にて情報交換会

企業講演 15:20～

【分析産業の新展開】

〈講演者〉 日本電子株式会社 代表取締役社長 栗原 権右衛門 氏

パネルディスカッション 15:50～

【研究・教育の活性化と学外連携に応える人材育成】

a) 〈事例紹介〉 北海道大学/群馬大学/岡山大学/東京農工大学

b) 〈パネリストによる意見交換〉

パネリスト

文部科学省研究振興局学術機関課/北海道大学/群馬大学/岡山大学/日本電子株式会社/東京農工大学

ファシリテーター

名古屋工業大学 副学長/産学官金連携機構長 江龍 修 氏

閉会の辞 18:00～

東京農工大学 理事・副学長 荻原 勲

※2月2日(金) 10:30～12:00

希望者による東京農工大学施設見学会

主催:東京農工大学

URL: <http://www.tuat.ac.jp/>

■お問い合わせ■ 学術研究支援総合センター 設備サポート室

TEL:042-388-7893

Email: [setsubi@cc.tuat.ac.jp](mailto:setsubi@cc.tuat.ac.jp)

### 3. 第4回設備サポートセンター整備事業シンポジウムを終えて

#### ー課題と提言ー

第4回設備サポートセンター整備事業シンポジウムは、大野弘幸東京農工大学学長による開会の挨拶で始まり、平成29年度採択校(東京医科歯科大学、鳥取大学、宮崎大学)によるポスターレビュー、続いて文部科学省研究振興局学術機関課の中島大輔研究設備係長により、「共同利用・共同研究体制の強化・充実～設備サポートセンター整備事業におけるこれまでの取組と今後に向けて～」と題して、基調講演をいただいた。その後、ポスターセッションにおいて各事業採択校(17大学)の実施状況、人材育成への取組その課題、そして今後の展望などの説明と情報交換が行われた。引き続き、日本電子株式会社代表取締役社長の栗原権右衛門氏より「分析産業の新展開」と題して企業講演をいただき、パネルディスカッションでは「研究・教育の活性化と学外連携に応える人材育成」をテーマとして、活発なディスカッションを会場と一体となり行われた。

基調講演、パネルディスカッション及び企業講演を通じ、「大学の研究・教育力に繋がる設備共用の取組の在り方」、「人材育成のための大学組織の在り方」などが議題として挙げられた。

#### 【大学の研究・教育力に繋がる設備共用の取組の在り方】

大学の研究・教育力に設備機器の共用の取組を繋げるために、各大学で特徴ある試みが進められており、成果を上げつつある。そのようなプログラムの発展のために、設備サポート事業は、学外ニーズや大学の情報を集約できる“場”を作る重要な役割を担っている。その“場”から教育・研究のアウトプットの価値向上、それと関連した企業・大学・研究機関等々との学外連携を目指した、ヒト・モノ・情報の交流を阻害する壁を突き破ることを目指す必要があるのではないのか。

#### 【人材育成のための大学組織の在り方】

技術職員等のサポート人材は大学の教育研究を支える上で大変重要であり、かつ彼らが出すアウトプットは凄く、決して技術的に劣っているとは思えないが、それら結果が彼らの評価・成果に繋がっていない場合が多々ある。彼らがさらなる技術研鑽を行い、そして彼らの成果を見える化できる大学の組織構築はサポート人材のモチベーション向上の上で大変重要である。そのためにも技術職員の方々が大学関係者と同じテーブルに着き、議論できる仕掛けを組織として作る必要があるのではないのか。

以上が、本シンポジウムで議論された主な課題のとりまとめである。

本シンポジウムは、全国の大学等に所属する設備機器の管理運営に関係した教員、技術職員、URA、事務職員等にとって、情報収集並びに情報の共有の“場”として増々役割が重要となっていており、来年度以降も継続して開催すべく提言するとともに、今後の大学研究・教育力向上を目指し、平成 30 年度以降においても文部科学省より新規支援事業を提案いただけるよう要望いたします。

本シンポジウムにおける議論を踏まえ、平成 30 年度以降の新たな共用設備支援事業の継続と発展に向け、以下の提言をさせていただきます。

- 1 大学の教育・研究力向上のためには共用設備機器の活用と、研究教育を連携する体制作りが必要である。
- 1 学外連携を行う“場”を設定する上で、設備サポートセンター整備事業はまさしface to faceの“場”として意義がある。
- 1 本事業は日本の産業力の国際的な競争力向上を支える独創的・先進的な研究を研究機器の共用システム通しサポートするだけでなく、それら研究を支える高度な解析力を有する人材育成の“場”としても大いに意義がある。
- 1 真の意味で人を育てるには、学内外の情報交換と、そこに関わる技術者の交流が必要であり、そのためには間に存在する壁を打ち破る必要がある。
- 1 設備共用に関わる技術職員や学生の実績を見える化することで、彼らの地位を積極的に高めることが求められている。
- 1 各大学それぞれに合った研究支援組織体制の構築と、それにかかわる技術職員制度の仕組み作りが必要である。
- 1 大学として技術職員等の積極的な参与のもとに、設備サポートセンター整備事業を議論し、意見を出せる場が求められている。
- 1 大学としての機能の活性化を目指し、今後も設備サポートセンター整備事業の継続あるいはその趣旨を引き継ぐ共用設備支援事業の立ち上げを強く要望する。

北海道大学(江端 新吾) 東北大学(坂園 聡美) 筑波大学(佐々木 絢子)  
群馬大学(若松 馨) 千葉大学(榎 飛雄真) 東京医科歯科大学(木村 彰方)  
東京農工大学(臼井 博明) 金沢大学(向 英則) 名古屋工業大学(江龍 修)  
大阪大学(古谷 浩志) 神戸大学(藤井 稔) 鳥取大学(森本 稔)  
岡山大学(田村 隆) 広島大学(野田 好人) 高知大学(津田 雅之)  
九州大学(稲田 幹) 宮崎大学(今井 正人)

第5回 設備サポートセンター整備事業シンポジウム

# 設備サポートセンター整備事業を どう成長させるか

～設備サポート活動の先に見えてきたものと立ちはだかるもの～

日時 平成31年1月24日(木)13:30～18:10

場所 岡山大学創立五十周年記念館

[シンポジウムHP] <http://fspp.kikibun.okayama-u.ac.jp/symposium>

参加費無料

- ・1月24日(木)13:30～18:10 シンポジウム
- ・1月24日(木)18:30～20:00 情報交換会
- ・1月25日(金)10:00～11:30 施設見学

参加は1月10日(木)までWEB申込で  
<http://fspp.kikibun.okayama-u.ac.jp/registers/form>



文部科学省「設備サポートセンター整備事業」の採択を受け、教育研究設備の共同利用体制構築に積極的に取り組む全国各地の大学が一同に会し、「設備共同利用、研究体制強化」に関する課題を解決するための情報交換・情報共有、そして整備事業の発展に資する提言を行います。

## シンポジウムプログラム

### 開会の辞

13:30～

岡山大学 学長 槇野博史

### 基調講演

13:40～

- 【共同利用・共同研究体制の  
強化・充実について(仮題)】  
講演者：文部科学省研究振興局学術機関課

### 依頼講演

14:10～

- 【岡山県工業技術センター活動紹介】  
講演者：岡山県工業技術センター 応用技術部長  
窪田真一郎 氏

### ポスタープレビュー

14:40～

富山大学／京都大学／山口大学

### ポスターセッション

15:10～

- ・設備有効利用システム：北海道大学／千葉大学／東京医科歯科大学／名古屋工業大学／山口大学／筑波大学  
高知大学／九州大学／宮崎大学
- ・技術人材の育成：富山大学／金沢大学／京都大学／神戸大学／岡山大学
- ・学外・学内連携：東京農工大学／鳥取大学／群馬大学  
広島大学／東北大学／大阪大学

### パネルディスカッション

16:45～

- 【設備サポートセンター整備事業をどう成長させるか】  
～設備サポート活動の先に見えてきたものと  
立ちはだかるもの～

パネリスト：文部科学省研究振興局学術機関課／岡山県工業技術センター／宮崎大学／金沢大学／東北大学  
ファシリテーター：岡山大学

### 閉会の辞

18:05～

岡山大学 理事・副学長 竹内大二

主催：岡山大学 URL:<http://www.okayama-u.ac.jp/>

お問合せ：自然生命科学研究支援センター 設備・技術サポート推進室

(TEL) 086-251-8745

(Email) [SCO\\_Symp@okayama-u.ac.jp](mailto:SCO_Symp@okayama-u.ac.jp)



# 大学技術部 一覧

## (技術研究会等)

このページは、全国の大学、研究所等のに設置されている技術部・技術室等の一覧です。  
リストから漏れているところの情報を下記アドレスまでお寄せ下さい。

☒ 連絡先：名古屋工業大学 技術部装置開発課 高木 弘 [htakaki@nitech.ac.jp](mailto:htakaki@nitech.ac.jp)

Since 1997.01.26

[\[北海道\]](#) [\[東北\]](#) [\[関東\]](#) [\[中部\]](#) [\[近畿\]](#) [\[中国\]](#) [\[四国\]](#) [\[九州\]](#) [\[全国\]](#) [\[更新記録\]](#)

**技術研究会** [総合](#) [機器・分析](#) [実験・実習](#) [九工大](#) [情報処理](#) [ Last Up date 2018.11.15 ]

総合技術研究会			
H33	核融合科学研究所	*	未定
2020	東北大学	総合技術研究会	未定
2019	千葉大学(KEKと合同)	技術研究会	未定
H30	九州大学	<a href="#">総合技術研究会</a>	2019.03.06-08
H29	核融合科学研究所	<a href="#">技術研究会</a>	2018.03.01-02
	沖縄工業高等専門学校	<a href="#">九州地区総合技術研究会</a>	2018.03.06-07
	九州大学	<a href="#">九州大学 技術研究会</a> Pre	2018.02.21-22
H28	東京大学	<a href="#">総合技術研究会</a>	2017.03.09-10
H27	高エネルギー加速器研究機構	<a href="#">技術研究会</a>	2016.03.17-18
	九州工業大学	<a href="#">九州地区総合技術研究会</a>	2016.03.17-18
H26	北海道大学	<a href="#">総合技術研究会</a>	2014.09.04-05
H25	核融合科学研究所	<a href="#">技術研究会</a>	2014.03.13-14
	長崎大学	<a href="#">九州地区総合技術研究会</a>	2014.03.19-20
H24	愛媛大学	<a href="#">総合技術研究会</a>	2013.03.07-08
H23	分子科学研究所	<a href="#">技術研究会</a>	2012.03.08-09
	鹿児島大学	<a href="#">九州地区総合技術研究会</a>	2012.03.01-02
H22	熊本大学	<a href="#">総合技術研究会</a>	2011.03.17-18

H21	高エネルギー加速器研究機構	<a href="#">技術研究会</a>	2010.03.18-19
	熊本大学	<a href="#">総合技術研究会</a> Pre	2011.03.17-18
H20	京都大学	総合技術研究会	2009.03.09-10
H19	核融合科学研究所	技術研究会	2008.03.10-11
	京都大学	総合技術研究会 Pre	2008.xx
H18	名古屋大学	<a href="#">技術研究会</a>	2007.03.01-02
H17	分子科学研究所	<a href="#">技術研究会</a>	2006.03.02-03
H16	大阪大学	<a href="#">技術研究会</a>	2005.03.03-04
H15	高エネルギー加速器研究機構	技術研究会	2004.02.26-27
<a href="#">技術研究会報告集データベース with 分子科学研究所</a>			
<b><a href="#">機器・分析技術研究会 (鳥取大学)</a></b>			
2022	大阪大学 理学研究科	技術研究会 28th	未定
2021	山口大学	技術研究会 27th	未定
2020	奈良先端科学技術大学院大学	技術研究会 26th	未定
2019	分子科学研究所 (総合)	技術研究会 25th	未定
H30	秋田大学	<a href="#">技術研究会</a> 24th	2018.09.06-07
H29	長岡技術科学大学	<a href="#">技術研究会</a> 23th	2017.08.29-30
H28	名古屋大学	<a href="#">技術研究会</a> 22th	2016.09.08-09
H27	山形大学(米沢)	<a href="#">技術研究会</a> 21th	2015.09.10-11
H26	北海道大学	<a href="#">総合技術研究会(分科会)</a> 20th	2014.09.04-05
H25	鳥取大学	<a href="#">技術研究会</a> 19th	2013.09.12-13
H24	大分大学	<a href="#">技術研究会</a> 18th	2012.09.06-07
H23	信州大学	技術研究会 17th	2011.09.08-09
H22	東京工業大学	<a href="#">技術研究会</a> 16th	2010.09.02-03
H21	琉球大学 実験・実習と合同	<a href="#">技術研究会</a> 15th	2010.03.04-05
H20	愛媛大学	技術研究会 14th	2008.09.25-26
H19	富山大学	<a href="#">技術研究会</a> 13th	2007.08.23-24
H18	広島大学	<a href="#">技術研究会</a> 12th	2006.09.14-15
H17	岩手大学	<a href="#">技術研究会</a> 11th	2005.09.15-16



H16	佐賀大学	技術研究会 10th	2004.09.16-17
H15	三重大学	技術研究会 09th	2003
H14	東京大学 7分科会	総合技術研究会 08th	2002
H13	大阪大学 工学部	技術研究会 07th	2001
H12	福井大学	技術研究会 06th	2000
H11	東北大学 金属材料研究所	技術研究会 05th	1999.11.11-12
H10	名古屋工業大学	<a href="#">技術研究会</a> 04th	1998.11.26-27
H09	静岡大学	技術研究会 03th	1997.11.27-28
H08	大阪大学 産業科学研究所	技術研究会 02th	1996.11.14-15
H07	分子科学研究所	技術研究会 01th	1996.03.18-19
<a href="#">歴史 with 大阪大学産業科学研究所</a>			
<b>実験・実習技術研究会</b>			
2019	鹿児島大学	<a href="#">技術研究会</a>	2020.03.18-19
H29	信州大学	<a href="#">技術研究会</a> 7th	2018.03.01-03
H27	山口大学	<a href="#">技術研究会 in 西京</a> 6th	2016.03.03-04
H25	岩手大学	<a href="#">技術研究会</a> 5th	2014.03.05-06
H23	神戸大学	<a href="#">技術研究会</a> 4th	2012.03.14-15
H21	琉球大学	<a href="#">技術研究会</a> 3th	2010.03.04-05
H19	徳島大学	<a href="#">技術研究会</a> 2th	2008.03.06-07
H17	鳥取大学	技術研究会 1th	2006.03.02-03
<b>九州工業大学 情報技術研究会</b>			
H30	九州工業大学	<a href="#">開催見送り</a>	-
H29	九州工業大学	<a href="#">第13回技術研究会</a>	2018.03.19-20
H28	九州工業大学	<a href="#">第12回技術研究会</a>	2017.03.16-17
H27	九州工業大学	<a href="#">九州地区総合技術研究会 第11回技術研究会</a>	2016.03.17-18
H26	九州工業大学	<a href="#">第10回技術研究会</a>	2015.03.05-06
H25	九州工業大学	<a href="#">第9回技術研究会</a>	2014.03.17-18
H24	九州工業大学	<a href="#">第8回技術研究会</a>	2013.03.18-19
H23	九州工業大学	<a href="#">第7回技術研究会</a>	2012.03.06-07
H22	九州工業大学	<a href="#">第6回技術研究会</a>	2011.03.15-16
H21	九州工業大学	<a href="#">第5回技術研究会</a>	2010.03.18-19

H20	九州工業大学	<a href="#">第4回技術研究会</a>	2009.03.18-19
H19	九州工業大学	<a href="#">第3回技術研究会</a>	2008.03.18-17
H18	九州工業大学	<a href="#">第2回技術研究会</a>	2006.08.31-09.01
H16	九州工業大学	<a href="#">第1回技術研究会</a>	2005.03.04-05
<b>情報処理センター等担当者技術研究会</b>			
2021	九州・沖縄地区	技術研究会 33th	未定
2020	中部・近畿地区	(富山大学) 技術研究会 32th	未定
2019	関東・甲信越地区	(筑波大学) 技術研究会 31th	未定
H30	徳島大学	<a href="#">技術研究会 30th</a>	2018.09.06-07
H29	岩手大学	<a href="#">技術研究会 29th</a>	2017.08.31-09.01
H28	宮崎大学	<a href="#">技術研究会 28th</a>	2016.09.08-09
H27	岐阜大学	<a href="#">技術研究会 27th</a>	2015.09.10-11
H26	電気通信大学	<a href="#">技術研究会 26th</a>	2014.08.28-29
H25	鳥取大学	<a href="#">技術研究会 25th</a>	2013.08.29-30
H24	佐賀大学	技術研究会 24th	2012.11.07-08
H23	室蘭工業大学	<a href="#">技術研究会 23th</a>	2011.08.25-26
H22	名古屋工業大学	<a href="#">技術研究会 22th</a>	2010.09.16-17
H21	熊本大学	<a href="#">技術研究会 21th</a>	2009.09.03-04
H20	弘前大学	<a href="#">技術研究会 20th</a>	2008.08.28-29
H19	広島大学	<a href="#">技術研究会 19th</a>	2007.09.06-07
H18	金沢大学	<a href="#">技術研究会 18th</a>	2006.09.07-08
H17	琉球大学	技術研究会 17th	2005.09.08-09
<a href="#">歴史 with 東京農工大</a>			

[総合](#) [機器](#)・[分析](#) [実験](#)・[実習](#) [九工大](#) [情報処理](#)

[\[北海道\]](#) [\[東北\]](#) [\[関東\]](#) [\[中部\]](#) [\[近畿\]](#) [\[中国\]](#) [\[四国\]](#) [\[九州\]](#) [\[全国\]](#) [\[更新記録\]](#)